

第4号

2025年3月24日発行



愛媛大学社会共創学部 同窓会会報

愛媛大学社会共創学部同窓会

同窓会会長挨拶

愛媛大学社会共創学部同窓会
会長 谷口 丈太
TANIGUCHI Jota



愛媛大学社会共創学部同窓会会員の皆様には、日頃より同窓会の運営等にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

2024年度は、ANAクラウンプラザホテル松山にて同窓会設立5周年記念イベントの開催や、3回目の「卒業生によるキャリアセミナー」の実施などのイベント開催をはじめ、会員の皆様から頂いた会費を在学生への様々な支援に活用させていただくことができました。

卒業生が集まれる同窓会イベントについては今後も節目のタイミングで開催したいと考えていますので、今回ご参加が難しかった方も是非次回ご参加いただければと思います。また卒業生によるキャリアセミナーも毎回在学生の方の満足度が高いため引き続き実施できればと思っています。毎回少しずつメンバーを変えていますので、是非自分の業界の魅力を伝えたいという方がいらっしゃいましたらご連絡いただけますと幸いです。

さらに、今年は社会共創学部設立10周年の節目でもあります。

学部において記念イベントなどの企画が進行していますので皆様にも楽しんでいただける企画になろうかと思います。

それでは、今後とも社会共創学部同窓会へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

目 次

同窓会会長挨拶	1
学部長挨拶	2
第1回同窓会[設立5周年記念イベント]	3
「社共卒業生による!キャリアセミナー～卒業生に聞くからどこよりもリアル～」	4
海外フィールド実習レポート	7
研究室紹介/尾花 忠夫 助教 (産業マネジメント学科)	8
竹内 久登 助教 (産業イノベーション学科)	9
渡邊 敬逸 講師 (環境デザイン学科)	10
竹島 久美子 助教 (地域資源マネジメント学科)	11
卒業生の声/大河内 美帆 さん (第1期生 地域資源マネジメント学科卒業)	12
武智 涼 さん (第3期生 産業イノベーション学科卒業)	13
退職の挨拶/榊原 正幸 教授 (環境デザイン学科)	14
寺谷 亮司 教授 (地域資源マネジメント学科)	15
同窓会からのお知らせ・編集後記	16

※同窓会会報発行時は、令和6年卒業予定者となります。

愛媛大学社会共創学部

学部長 松村 暢彦

MATSUMURA Nobuhiko



大学を卒業して数年経ち、社会の荒波に揉まれながらも強く生き抜くのに懸命な人も多いと思います。大学も他の企業、組織と同じように、生産性の向上が強く求められるようになってきました。いわゆる、競争的環境を作り出し、資源配分を重点化することで効率化を加速させる動きです。「生産性の向上」といった場合、ムダな業務の洗い出し、業務の標準化、テクノロジーの活用などにより、ムリ・ムラ・ムダを排除することで短期的な成果を実現する戦略をとりがちです。しかし、そもそも「生産性の向上」とは短期的な効率性の向上だけではなく、長期的な観点から創造性を高めていくことも忘れてはなりません。この創造性はムリ・ムラ・ムダから生まれるもので、効率性により生み出された精神的、時間的余裕を創造性につなげる取組が求められます。

皆さんの大学時代を思い出していただくと分かるように、プロジェクトやフィールドワークでは効率的にはほど遠い方法で調査をしたり、社会実装を想定していても行き当たりばったりのことを繰り返していたと思います。このように一見非効率に見えることでも、その行為で得られたデータや人的なネットワークにより、思わぬ結果を残した経験もあろうかと思います。このようなムリ・ムダ・ムラによって生み出された創造性を身体的に経験できる学びの機会こそが大学教育では貴重だと考えています。

いよいよ2025年、社会共創学部は設立10周年を迎えます。皆さんの社会人での経験を聴かせていただきながら、社会共創学部での学びをさらに発展させていきたいと思えます。8月には記念行事を開催し、社会共創学部らしい地域のステークホルダーとともに地域の未来を考える機会を作ることを予定しています。また、同窓会を通じて案内を差し上げますので、ご協力いただけると助かります。

最後になりましたが皆さんの健康とこれからの活躍を願いつつ、社会共創学部としても応援していきたいと思えます。



第1回同窓会

[設立5周年記念イベント]

2024年9月22日(日)、ANAクラウンプラザホテル松山にて社会共創学部卒業生及び教職員約40名が集い、同窓会設立5周年記念イベントが開催されました。



- 1.同窓会副会長挨拶
- 2.社会共創学部長挨拶
- 3.歓談
- 4.利きみかんジュースゲーム
- 5.榊原先生のお言葉・花束贈呈
※2024年度でご退職
- 6.同窓会会長挨拶



かつて共に研鑽を積んだ仲間たちとの交流、教員との懐かしい話など、各テーブル、またテーブルを超えておおいに旧交を温めました。
皆様、次回のご参加もお待ちしております！





「**社共卒業生による！ キャリアセミナー**」

～卒業生に聞くからどこよりもリアル～
を開催しました！！

2024年10月5日(土)、愛媛大学社会共創学部同窓会主催、愛媛大学社会共創学部共催により、昨年に続き「社共卒業生による！キャリアセミナー～卒業生に聞くからどこよりもリアル～」を開催し、社会共創学部1～3年生9人が参加しました。このセミナーは、在学生の皆さんに社会共創学部の卒業生が社会でどのように活躍しているかを知っていただき、今後の進路選択における参考としていただきたいとの思いから、同窓会役員会が企画・開催しています。

当日は、講師である社会共創学部卒業生10名の自己紹介を行った後、講師の就職活動や仕事などについての質問を受け付けました。業界別座談会では、「インターンシップや説明会では聞けないリアルな就活」や「今後の就活に役立つアドバイス」など、普段はなかなか聞くことができない質問等を講師に投げかけるなど、参加学生の積極的な姿が見られました。

1. 講師の自己紹介

- 卒業年度
- 所属学科
- 名前
- 就職先
- 仕事内容

【講師の所属する業種】

製造業

広告

海外事業

コンサルティング

公務員

専門商社

食品

IT

金融・保険



2. パネルディスカッション



3. 座談会



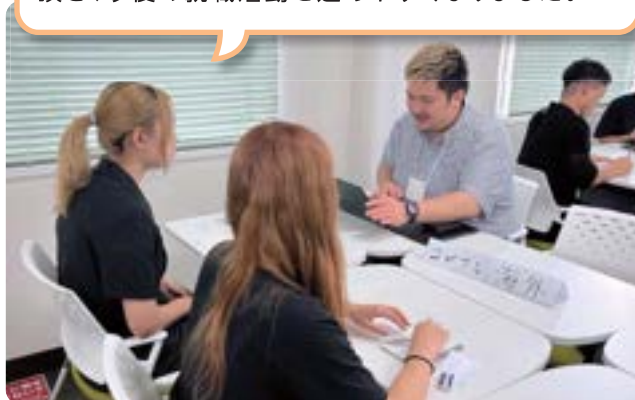
3年連続で「座談会」が最も満足度が高いコンテンツに選ばれました！

参加学生の声

就職に関して不安な部分を親切に教えていただき、就職に向けて一歩踏み出せる機会だったので非常に良かったです。

気になっていた業界のリアルなお話や、企業説明会では聞けないより具体的な働き方などをお話して頂き、今後の就職活動を進めやすくなりました。

卒業生の方とお話できる機会はとても貴重で、説明会ではなかなか聞くことのできないような率直なお話も聞くことができて、とても参考になりました。



現場インタビュー



今回参加したことで新しい会社を知ることができ、興味のある会社の深堀りもできました。また、自分が所属している学科の卒業生と話ができるので貴重な経験でした。ぜひ後輩にも参加してほしいです！

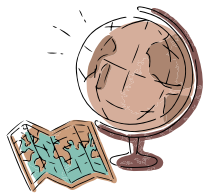
産業マネジメント学科3年生
Hさん



インターンに参加したことがない業界の話も聞けてすごく勉強になりました！少人数だったので卒業生の方と距離が近く、質問もしやすかったです。来て本当に良かったです！

地域資源マネジメント学科3年生
Iさん

参加学生による事後アンケートの結果では、非常に高い満足度を得ました！
社会共創学部同窓会の在学生向け支援のひとつとして、来年度以降も開催していきます。



海外フィールド実習 レポート!

この授業は、訪問国の大学の学生と協働でフィールド実習に取り組むことによって、国際コミュニケーション能力・国際性・協調性・社会性・課題解決能力を身につけることを目的としています。特に、参加学生は、海外の地域の様々なステークホルダーと英語や現地語でコミュニケーションを取り、その活動を通して異文化理解を深め、その地域が抱える課題の本質を捉え、変革することの意義と姿勢を学び、国際的課題に対する自己のモチベーションを形成することを目指します。また、本授業の参加学生に対し、渡航費の一部を社会共創学部同窓会が支援しています。

同窓会が支援した活動一覧

海外フィールド実習



インドネシア

[実施期間] 8月26日～9月6日

[実施場所] インドネシア共和国、バンドン

[参加人数] 13人



竹を使った楽器や伝統的な暮らしについて学ぶ

海外フィールド実習



カンボジア

[実施期間] 8月25日～9月3日

[実施場所] カンボジア王国、プノンペン市内・郊外

[参加人数] 3人



防災意識に関するアンケート調査

海外キャリア実践



韓国

[実施期間] 9月4日～11日

[実施場所] 大韓民国、ソウル近郊

[参加人数] 12人



インターンシップとしてソウル近郊の企業を訪問

愛媛大学社会共創学部

産業マネジメント学科 会計学

【専門分野】

私は会計学、特に管理会計を専攻しています。会計を大きく分類すると、財務会計と管理会計に分けられます。財務会計は、貸借対照表や損益計算書などの財務諸表の作成を通して、外部ステークホルダーに対し有用な情報を提供することを目的とします。一方で、管理会計は、企業内部の関係者、特に意思決定を行う管理者に対して、意思決定に有用な会計情報を提供することを目的とします。これらの性格の違いから、財務会計は「外部報告会計」、管理会計は「内部報告会計」とも呼ばれます。

【研究内容】

管理会計の領域の中でも、特に「振替価格の管理」をテーマにしています。振替価格とは、主に国内の同一企業内で取引される財に付される価格を指します。単なる価格決定のように思いますが、市場で販売される財の価格決定とは大きな違いがあります。それは、取引される財の価格次第で、取引当事者間の関係に軋轢を生じさせる可能性がある点です。

この問題は、もともと事業部制組織における内部取引に端を発しています。同一企業内での取引ではあるものの、取引結果が各事業部の業績評価に直結するため、販売側は高い価格で販売を考えるし、購入側は安い価格で購入しようと考えます。ここに取引当事者間の利害対立が生じるわけです。この問題は事業部の業績評価だけに限らず管理者の動機づけにも大きな影響を及ぼしかねないため非常にセンシティブな問題となるのです。

更に昨今のグローバルな経営環境下において企業は、国際振替価格（国際移転価格）の管理にも対処しなければなりません。国際振替価格は、振替価格で生じる問題に国際課税という外的要因が加わることで、二重課税のリスクや移転価格税制による規制といったより複雑な問題へと発展するのです。現在は企業が振替価格や国際振替価格を管理する上で抱える様々な問題を解決するための研究を行っています。

【今後の展望】

振替価格に関する議論は、サプライチェーンを構築する異なる企業間の価格決定や昨今話題に上がることが多い社内炭素価格の決定についても適用可能だと考えられます。今後は、これら2つの問題に対して、振替価格の研究を展開していきます。

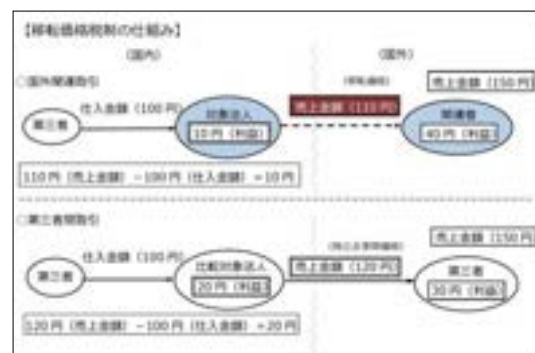
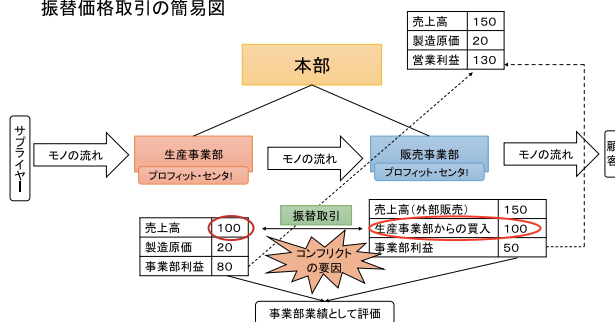
愛媛大学社会共創学部 産業マネジメント学科

助教 尾花 忠夫

OBANA Tadao



振替価格取引の簡易図



愛媛大学社会共創学部

産業イノベーション学科 水産微生物学

養殖業は今や世界の食糧生産に貢献する最も重要な産業であり、私が住んでいる愛南町を含む南予地域ではマダイやブリが盛んに生産・出荷されており、今や国内のみならず世界各地で愛媛の養殖魚が楽しまれています。一方で、養殖場ではしばしば病原微生物の感染により発生する魚病や、植物プランクトンの異常増殖による赤潮が発生しており、数億円以上の経済被害を及ぼしています。そこで私たちは、地域の水産業振興を目指して愛南町に設置された南予水産研究センターを拠点として、魚病と赤潮被害を防ぐ技術の開発研究に取り組んでいます。

近年、水や土に含まれるDNAから生物の生息場所や生息量を調べる「環境DNA技術」が注目を集めていますが、私たちはこの技術を応用し、養殖場の海水に含まれている魚病や赤潮の原因微生物のDNAを検出する技術の開発を行っています。さらに研究の中で、DNAだけでなく、生き物の生理状態を司るRNAが海水から検出できることもわかってきて、水から養殖魚の健康状態がわかる可能性も示されてきました。今後はこれらの技術を活かし、有害微生物が養殖場においていつ、どこで増殖し、どのような状態の時に魚病や赤潮が発生させるのかを明らかにするとともに、海水中のRNAを使った魚の健康診断技術の開発を目指しています。将来、水を汲むだけで、有害微生物の有無や魚の健康状態が同時に検査できる日が来ることを夢見ています。

私たちの研究室がある南予水産研究センターは、愛南町に設置されたレジデント型研究（地域に定住し、研究者・生活者・当事者といった多面的な顔を持ちながら、地域の課題解決に向けた研究活動を行う）施設であり、私は学生さん達と共に地域に溶け込みながら研究活動を行っています。今後も、南予地域や愛媛県の水産業に貢献する研究を行っていくとともに、一町民として町づくりや地域貢献活動にも積極的に取り組んでいきたいです。

愛媛大学社会共創学部 産業イノベーション学科

助教 竹内 久登

TAKEUCHI Hisato



海水から有害微生物の環境DNAを検出



マダイの養殖生簀

愛媛大学社会共創学部

環境デザイン学科 地理学

皆さんこんにちは、環境デザイン学科の渡邊敬逸です。私の専門分野は地理学で、主なフィールドは日本の農山村です。現在は主に無住化集落研究（廃村研究）に取り組んでいます。具体的には、主に四国地方を対象として、無住化集落の位置、現状、将来的な発生予測等を地理情報システム、統計解析、現地調査を通じて明らかにしています。

さて、なぜこんな研究をしているかということですが、その理由は既往研究の多くが集落の維持再生を前提としており、集落の無住化を視野に入れていないためです。特に過疎集落研究に関していえば、2000年代に注目された限界集落論への反証として田園回帰論や関係人口論等の議論が出ていますが、どの論も集落の維持再生を命題とする「存続論」です。そして、これらの「存続論」は過疎集落の維持再生に対する擁護志向が強いゆえに、各論に集落の無住化を積極的に位置づけることができず、結果として無住化集落の存在を他山の石としています。最新の国の調査によれば全国約3,600集落が将来的に無住化するとされており、これらの集落全てが「存続論」の描くような維持再生を達成できるとは思えません。その点で言えば、今後は集落を閉じようとする諸実践に対する擁護志向も重要であると考えます。この方向性についてはむらおさめ論や縮充論などの「縮小論」が出ているところですが、その具体的な議論は緒に就いたばかりです。

ただし、私は研究から得られた知見をもって「存続論」や「縮小論」に貢献しようと考えていません。なぜなら、両者ともに居住者のいる現存集落を前提とした議論であり、現時点で居住者のいない無住化集落に対しては大きな意味を持たないためです。特に「存続論」の範疇で無住化集落を議論しても、その存続至上主義の論理に回収されるだけで、生産的な議論になりえません。その意味で私の研究は過疎集落研究ではなく、無住化集落研究であり、両者は似て非なるものであると考えています。とはいえ、この方向で集落研究をしている人はほとんどいないので、結構苦労の連続です。これをお読みの方で大学院に進学して無住化集落について研究したい、という方がいらっしゃいましたら大歓迎です……

愛媛大学社会共創学部 環境デザイン学科

講師 渡邊 敬逸

WATANABE Hiromasa



離村碑 (西条市郷)



学生と調査 (西条市槌之川)

愛媛大学社会共創学部

地域資源マネジメント学科 農業経済学

私の専門は農政学ですが、2020年に愛媛大学に着任してからは、幅広く食や農村社会、農村経済を対象とした調査研究をしています。社会共創学部、特に地域資源マネジメント学科では、地域との関係構築を行いながら実習・調査・研究を進めるスタイルが重要になっているので、自身のポリシーとも共通する部分が多くて良いなと思っています。

生まれも育ちも首都圏だったため、学ぶ場とフィールドが近い愛媛県、特に松山市は学生生活を送るのに適した場所なのだと感じていますが、卒業生の皆さんはどんな感想をお持ちでしょうか。「ないものはない」は島根県の離島の町、海士町のキャッチコピーですが（意味や経緯は調べてみてください）、「置かれた場所で咲きなさい」（愛媛に自身が来たことについて卒業生が引用した言葉）など、私にとって愛媛に来たからこそ響いた言葉がいくつもあります。

農業経済学に興味を持ったきっかけは、世界の飢餓問題からでした。その後、世界に目を向けるよりも国内の生産・流通・消費の構造を分析することで、国内に食料を安定的に供給することに貢献できればと思ってこれまでやっていますが、なかなか農業や食を取り巻く世の中が良くならずどうしたものかと思っています。授業では「農林漁業団体論」や「農業構造論」を担当していますが、授業を通じて農業や食、農村について少しでも理解のきっかけを感じてもらって、学生の皆さんに一人の消費者（あるいは将来的な生産者、少なくとも地域社会の一構成員）として、一人一人の行動変容からの社会変容につなげてもらえるといいなと考えて取り組んでいます。

写真は卒論ゼミで参加している「愛媛お手伝いプロジェクト」という有償ボランティアの活動です。せっかく愛媛県で学生生活を送っているのに、一度も柑橘の収穫作業をしたことがない・・・ということになっては良くないだろう、ということで取り入れています。社会人の方も参加できるものですので、ぜひ卒業してから柑橘産地に足を運んでください。

愛媛大学社会共創学部 地域資源マネジメント学科

助教 竹島 久美子

TAKESHIMA Kumiko



愛媛お手伝いプロジェクトの様子



山からの景色

1期生の大河内美帆と申します。私は2020年度に地域資源マネジメント学科を卒業した後、転職を経て、現在は県外の山村で、転地療養・リワーク施設の支援職として働いています。

社会共創学部での学生生活を通して、私は「見識を広げ、探究することの楽しさ」と「土地ごとの地域資源が人々や社会にもたらす影響の大きさ」を知りました。

社会共創学部には、講義の内外に関わらず、多種多様な地域と人々に触れ合い、分野や枠組みを越えて様々な経験を積む機会が溢れていました。その恵まれた環境で挑戦と失敗を繰り返すことで得られた「見識を広げ、探究することの楽しさ」は、私の生き甲斐にも繋がっている一生の財産だと感じています。

卒論研究では、主要産業として地域を発展させた資源が、産業として衰退しつつある今も文化として、地域のルーツや人々の誇りにおいて強い存在感を放っていることに深く関心を持ちました。また、地域資源の保存・活用の社会的意義と、ステークホルダーの利害関係による難しさについては、大学4年間を通して向き合い続けた課題であったと感じます。

転職を経験し、県外に出て働く今も変わらず私の中に軸としてあるのは「地域、人々、そして地域資源の可能性を信じ、支える」ことです。

現職では、メンタルの不調を持たれている方に対して、豊かな自然や立地、田舎ならではの生活などの地域資源を活かして療養とリハビリを行い、より自分らしい人生へと踏み出していただくためのサービスを提供しています。

その中で、地域資源を活用し、地域の様々な関係者と連携・協働しながらサポートを行い導いていくという、地域資源マネジメント学科での学びが活きています。

将来の目標は「メンタル不調の方が社会復帰・継続就労できる体系的な質の高いサービスを地方にも届ける」ことです。学び続ける姿勢を忘れず、まずはひとつずつ、挑戦と経験を積み重ねて励んでまいります。

第1期生 地域資源マネジメント学科卒業

大河内 美帆さん

OKOCHI

Miho



2022年3月に産業イノベーション学科ものづくりコースを卒業しました。現在は大学3回生のときに立ち上げた学習塾の経営を続けています。

私は高校2年生のとき、進路選択に迷っていたところ、高校の先生から産業イノベーション学科ものづくりコースを勧められました。「プログラミングに興味はあるものの、工学部で専門性を高めるほどではない」と感じていました。しかし、このコースでは工学の知識やスキルを学びながら、課題解決力やコミュニケーション力といった社会で必要な能力を身に付けられると知り、入学を決めました。

実際に入学してみると、社会共創学部は履修できる授業の幅が広く、多くの選択肢がありました。そのため、自分の興味のある分野やこれまで触れる機会がなかった分野について学ぶことができました。また、科目数や履修スケジュールを調整しやすかったため、1～2回生のときはサークル活動やアルバイトにも力を入れる余裕がありました。

3回生のときはコロナ禍の影響で行動が制限される場面が多くありましたが、その分、自分の夢や将来について深く考える時間を持つことができました。そして、自分の夢を実現するために「自らお金を稼ぐ経験を積むこと」「自分自身と周囲を豊かにしていくこと」を決意し、行動を始めました。大学での研究活動と並行してこれらに取り組むのは簡単ではありませんでしたが、教授の方々の支えもあり、両立させることができました。

社会共創学部での学びは私にとって大きな財産となりました。「フィールドワーク入門」「プロジェクト演習」などの授業では、インプットとアウトプットを実践的に経験することができました。これらを通じて、課題解決への考え方や積極的な姿勢を身に付けることができたと感じています。また、「組織デザイン論」や「統計学入門」で得た知識は、卒業後の活動においても役立っています。

今後も社会共創学部で得た学びも大切にしながら、自分の夢の実現に向けて努力し続けます。



第3期生 産業イノベーション学科卒業

武智 涼さん

TAKECHI Ryou



退職の挨拶



愛媛大学社会共創学部 環境デザイン学科

教授 榊原 正幸

SAKAKIBARA Masayuki



私は、今年の3月末をもって定年退職することになりました。在任中、学部において関りがありました皆様方には、本当にお世話になりました。この紙面をお借りいたしまして、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。2016年(平成28年)の学部創立以来、私は新学部の教員として、後ろを振り返らず、走り続けて参りました。本当にあっという間の9年間でした。

私にとって、社会共創学部での最も楽しい思い出は、何といても学生と行ったインドネシアの「海外フィールド実習」です。学部創立後の4、5年の間、担当いたしましたこの実習は、本当に中身の濃いフィールドワークであり、その時の参加学生との間の関係は、今でも途絶えることはありません。数年前、インドネシアでの調査中の事故の後遺症のため、実現ができていませんが、いつかまた、その当時の卒業生とインドネシア・ゴロンタロ訪問にチャレンジしてみたいと考えております。

さて、社会共創学部における私の研究上の重要な問いは、「トランスディシプリナリー手法は、社会の問題解決に有効なのか」でした。そして、この9年間の私なりの結論は、「イエス」です。トランスディシプリナリー手法は、「研究者とステークホルダーが協働で科学知を必要とする“やっかいな問題”について共に学習し、協働で実践的し、そしてその問題解決に取り組む」というプロセスの実践的研究手法です。その際、科学者は科学者が抱える「権力の非対称性」を修正し、ステークホルダーとの価値観のギャップを埋めつつ、協働作業に取り組めます。そして、何よりも、その過程でステークホルダーが研究者から自立できるようにサポートすることが重要です。

私自身、まだ理想的なトランスディシプリナリー手法に到達できておらず、道半ばで定年を迎えることとなりました。これからは、学部を牽引する若手教員の皆さんに、是非、「トランスディシプリナリー手法」を理論的にも実践的にも深めていただき、愛媛大学社会共創学部の存在意義を示していただきたいと思います。

退職の挨拶



愛媛大学社会共創学部 地域資源マネジメント学科

教授 寺谷 亮司

TERAYA Ryouji



私が愛媛大学に着任したのは1991年のことです。北海道 → 東北 → 北海道と移り住んだ私にとって、愛媛は全く未知の遠い地であり、生まれたばかりの娘と家内と、松山でのホテル暮らしが始まりました(引っ越し荷物は北海道から1週間かかりました)。

愛媛大学では、教養部(5年)、法文学部(16年)、地域創成研究センター(4年)、社会共創学部(9年)と異動しました。研究分野でいえば、教養部時代は支店経済などの固い都市地理学研究、法文学部時代はアフリカの都市・文化研究、地域創成研究センター・社会共創学部ではお酒に関わる地域貢献研究と、研究の重点領域が自然に替わりしました。

34年間の思い出のなかで、特に印象深いのは、①社会共創学部への異動、②モザンビーク国との交流、③学生との飲酒・語らいです。

社会共創学部で経験し感じたことは、学生と一緒にフィールドワークや地域貢献をすることの楽しさ(フィジー国実習や松山市久谷地区まちづくりなど実施)、まじめでおとなしい法文学部生と違って明るく積極的な社会共創学部生の学生気質、新学部なので決めること、なすべきこと、課題も多く、最後まで学科長を務め、忙しく働いたことです。

2008年からのモザンビーク国・ルリオ大学と愛媛大学の交流では、私はモザンビーク交流班の班長を務めました。2014年の安倍晋三元首相のモザンビーク国訪問時には随行し、安倍首相とゲブーザ大統領の立ち合いの下、両大学の交流協定を更新しました。

最も楽しかった思い出といえば、やはり飲みながらの学生との語らいです。花見、暑気払い、忘年会、謝恩会、寺谷邸追いコンをはじめ、学生が帰省先から持ち帰った酒30~40種を並べて新年恒例の地酒大会、愛媛大学酒「媛の酒」「愛され媛」(下記写真)を企画して販売できました。コロナ禍の時代は、愛媛大学酒も造れなくなり、本当に悲痛な想いでした。近年は、社会共創学部生でほぼ構成され、学生地酒コンテストを実施する地域文化研究会の学生と飲む機会が増えました。

私は毎年卒業する学生に、寄せ書きを記した日本酒枡を贈っています。枡に書く文言の一つは「一会一期」(一度会ったら一生の付き合い)です。卒業生やお世話になった教職員の皆さん、酒場など、どこかでまたお会いしましょう。



同窓会からのお知らせ

●同窓会の活動について

「愛媛大学社会共創学部同窓会」は、第1期生の卒業に合わせて、令和2年3月に設立されました。同窓会は、愛媛大学及び社会共創学部の発展に寄与することを目的に活動していきます。

●同窓会ホームページについて

令和4年1月末に、同窓会ホームページを開設しました。同窓会活動に関することや同窓会会員である皆さまへのご連絡等を、定期的に発信していきます。また、同窓会会報も年1回程度、掲載していきますので、ぜひご覧ください。

<https://www.cri-ehime-u-graduate.jp/> ▶



●会員情報登録・変更のお願い

同窓会を運営するにあたり、社会共創学部を卒業された正会員の皆さまの情報が必要となります。また、住所や電話番号等の変更がありましたら、変更手続もお願いします。

なお、皆さまからお預かりした個人情報については、「愛媛大学社会共創学部同窓会個人情報保護方針」に則り、適切に個人情報の保護に努めます。

●会費納入のお願い

同窓会設立前に入学された皆さま（平成28～令和2年度）については、入学時に同窓会会費を納入していただいております。同窓会の予算は、皆さまからの会費（一人20,000円 初回のみで以後は必要なし）があって成り立っていますので、未納者の方につきましては、ぜひ納入をお願いします。

●公式LINEのご登録のお願い

社会共創学部同窓会の公式LINEへの友達登録をお願いします。友達登録をしていただくと、本会報含む同窓会活動の内容をご確認いただけます。また、会員情報の変更（事務手続き全般）やイベントの案内など、同窓会に関する連絡は一括してこの公式LINEにて行います。ご登録はQRコードより読み取りをお願いします。

ID: @688jsczb

愛媛大学社会共創学部同窓会で検索！



編集後記

社会共創学部同窓会会報第4号の発行にあたり、ご協力頂いた皆さまには厚く御礼申し上げます。今年度は「同窓会設立5周年記念イベント」を開催し、社会共創学部の卒業生及び教職員が約40名集い、各テーブルを囲んで旧交を深めました。また、昨年度に引き続き開催した「キャリアセミナー」は参加学生が少数ではありましたが、普段聞くことができない質問を投げかける積極的な様子が印象的でした。今年度は社会共創学部設立10周年の節目になります。記念イベントの企画が進行していますので、皆さまにはぜひ会場にお越しいただき、楽しんでいただければと思います。そして、来年度も多くの在学生への支援、会員の皆さまへの情報発信ができるよう同窓会一同尽力してまいります。

これからも、社会共創学部同窓会の活動にご協力とご支援をいただけますと幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

〈 発行者 〉 愛媛大学社会共創学部同窓会事務局

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番（愛媛大学社会共創学部内）

E-mail : support@cri-ehime-u-graduate.jp